



I-OWA マンスリー・セミナー講演:「目指そう起業家」 +バフェットが教える人生の仕事で成功する26の秘密

講演: 岡本 和久 レポーター: 赤堀 薫里

私は、小学校、中学校、高校でよく「なぜ ATM からお金が出て来るのかな?」という質問をするのですが、答えられない子ども達がすごく多いのです。「君達のお小遣いは何処から来るの?」と聞くと、「保護者の人から貰う」と答えます。ATM から保護者の人がお金を出すところまでは知っていても、どうして ATM からお金が出るのかがわからないのです。銀行の窓口にある ATM の機械の数字と、自分の保護者が、一生懸命会社で働くことで給料が銀行に振り込まれているということが断絶しているわけです。

でも、子供のことを笑えません。パソコンを見ながら株価をトレードしている人達も、同じ様な状況と言えます。パソコンの画面上で、この株式はいくら、いくらだと言っていますが、銘柄の会社が、どういう会社で、そこでどんな人達が、どんな働き方をしている、その会社が世の中でどういう風に役立っているのか、そのところに思いが至っていない。どのようにして投資リターンの源泉が生まれているのかを実感を持って感じていない。結局、バーチャルな画面上の数字と実際の経済とが分断されてしまっている。これは ATM からお金がなぜ出てくるのか分からないのと同じです。それは、今、非常に大きな問題だと思います。



四十数年前から言われている、「貯蓄から投資」がなかなか進まない。それは、投資を含めてお金の使い方が、どういう風に実際の我々の生活に役立っているのか、多くの人にとってその辺に思いが至らない所に原因があると思います。収入から使わなかった部分が貯蓄になるわけですから、結局、貯蓄は、自分の為にするものです。投資は、稼いだお金を社会に循環して、経済活動の中に投じ、その経済活動を通じて世の中をよくしていくもの。つまり「投資は世のため、人のため」と言えるわけです。

投資教育がなかなか定着していかない要因として、株価に引きずられ、バーチャルな世界から話



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

が始まるからだと思います。私が投資の話をする時は、最初に株式会社の成り立ちから始めます。例えば「あなたがパン屋さんを始めたとします。事業拡大の為にあと 500 万円お金が必要です。そのお金を誰かから借りますか？出資者を仰ぎますか？」という具合です。このように実際の経済と結びついた話が重要ではないかと感じます。

小学校の上級生以上の子どもの場合、株式会社の仕組みを話す前に、「将来何になりたい？」という夢を聞くのではなく、「どういう起業家になりたい？」と質問します。そこには大きな違いがあります。仮に「将来、宇宙飛行士になりたい」と言われた場合、「その為に、どういうコストがかかり、どういうリスクがあるのか。」ということを考えさせることが非常に重要です。それは、起業家として何をしたいのかということにつながります。非常に多くの学校で職場体験を実施しています。それ自体はとてもいいことだと思います。ただ、職場体験というのは既にある事業がどう営まれているかを見に行っているわけですね。起業家になるということは、何も無いところからスタートする。「何をそこでやるのか？」というところが大きく違います。

子供たちにはまず、こんな話をしてあげます。今日のお話の主人公の起業家の 2 人の子供は、ヨシツネ君としずかちゃんです。起業家とは、新しく事業を起こす人で、その事業を経営し、ビジネスのリスクを取る人です。起業家はみんなが必要なものを与える人です。起業家は何が生活に必要かというアイデアを考え出す発明家のようなものです。起業家は商品やサービスのアイデアを創り出し、それを販売しておカネを儲けようとしています。

二人は自分にできる事業を考えます。ヨシツネ君は暑い夏だったのでアイ스티ーを作って販売することを考えます。しずかちゃんはペットのお散歩の仕事です。二人が必要とするものは何でしょう、そして、それはいくらぐらいかかるでしょう。一体、いくらをお客様からもらえばいいのでしょうか。そして、それらの仕事の将来性はどうでしょう。そんなことを考えてもらいます。その上で子供たち一人ひとりに自分のアイデアを書いてもらいプレゼンをしてもらうのです。小学生も 4 年生ぐらいになると立派に発表ができます。

後半では、ウォレン・バフェットによる「人生とビジネスで成功する 26 の秘密」の解説と、7 月 26 日開催の「大人と子どもの為のハッピー・マネー教室」に参加してくれた小学校高学年以上のちびっこ起業家達の個性溢れるビジネスプランを紹介頂きました。